

筑後市における公共交通のあり方は

北島 一雄 議員

答 公共交通が元気になる取り組みをしたい

問 平成23年度の筑後市における公共交通の満足度は71%と低下傾向にある。特に路線バスは利用人員が5年前に比べて17%減少し、市の補助金は3倍の1705万円。路線バスのあり方は。

市長 補助金をバス会社に交付して路線の維持を図っている。新設の船小屋柳川線は厳しい状況だ。今後、赤字が膨らむ予想。費用対効果の観点から整理する必要がある。



存続が危ぶまれるバス路線

問 船小屋から筑後船小屋駅までの延伸区間1.7kmの補助金約578万円は高額ではないか。

商工観光課長 国の補助を受けられない状況にある。バス会社と一定協議、整理をして、平成25年度からは年間約50万円程度の見込み。

問 コミュニティ自動車は満足度が高い。導入の動きは。

市長 バス路線をどう市民の足として活用できるか、公共交通が元気になる取り組みをしたい。

商工観光課長 公共交通の空白地域について、具体的な動きがあれば、積極的な支援をする。現在、古川地区で検討中。

問 公共交通として縦横のバス路線は機軸として守っていくべきだが。

議案と質疑

第12回 臨時会報告 8月27日開催

福岡ソフトバンクホークスファーム本拠地誘致の推進の為、特別委員会を設置する提案がなされました。

●特別委員会の設置について

(全員賛成 原案可決)

周辺地域、筑後七国の議会への働きかけや地元市民への強力な周知。

さらに、議会が率先して誘致活動を行う。誘致成功の際には、実際の誘致準備に向けた継続した取り組みをしていきたいとの趣旨により、提案がなされました。

問 筑後七国の議会への働きかけや市民への周知は具体的に何を考えているのか聞きたい。

答 筑後七国の議会へは筑後市の支援をするという決議をしていただく。筑後市は5万人ぐらゐの

都市だが、周囲の都市の支援で、他の名乗りを挙げている人口の多い都市にも勝っていけると考える。また、様々な取り組みはこれから委員会で協議し決められていくのではないかと思う。

福岡ソフトバンクホークスファーム本拠地誘致推進特別委員会委員

◎弥吉 治一郎
◎五十嵐 多喜子

中富 正徳
北島 一雄
松竹 秀樹
山下 元生
坂本 好教
池田 光政

◎委員長
◎副委員長



誘致目指してガンバロー